

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 2021年2月15日

【四半期会計期間】 第36期第3四半期(自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)

【会社名】 株式会社ヨシックス

【英訳名】 Yossix Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役会長兼社長 吉岡 昌成

【本店の所在の場所】 名古屋市東区徳川1丁目9番30号

【電話番号】 052-932-8431

【事務連絡者氏名】 執行役員 経営企画室室長 松岡 龍司

【最寄りの連絡場所】 名古屋市東区徳川1丁目9番30号

【電話番号】 052-932-8431

【事務連絡者氏名】 執行役員 経営企画室室長 松岡 龍司

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第35期 第3四半期累計期間	第36期 第3四半期累計期間	第35期
会計期間		自 2019年4月1日 至 2019年12月31日	自 2020年4月1日 至 2020年12月31日	自 2019年4月1日 至 2020年3月31日
売上高	(千円)	14,168,108	7,847,591	18,709,080
経常利益又は経常損失()	(千円)	1,938,853	688,545	2,353,662
四半期(当期)純利益又は四半期純損失()	(千円)	1,236,064	574,679	1,256,975
持分法を適用した場合の投資利益	(千円)	-	-	-
資本金	(千円)	335,609	335,989	335,894
発行済株式総数	(株)	10,318,200	10,322,200	10,321,200
純資産額	(千円)	7,763,359	7,085,975	7,784,480
総資産額	(千円)	11,500,109	11,915,182	10,789,927
1株当たり四半期(当期)純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()	(円)	119.80	55.67	121.83
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	119.47		121.49
1株当たり配当額	(円)	12.00		24.00
自己資本比率	(%)	67.5	59.5	72.1

回次		第35期 第3四半期会計期間	第36期 第3四半期会計期間
会計期間		自 2019年10月1日 至 2019年12月31日	自 2020年10月1日 至 2020年12月31日
1株当たり四半期(当期)純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()	(円)	41.79	7.26

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については、記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 持分法を適用した場合の投資利益については、当社は持分法適用会社がないため記載しておりません。

4 第36期第3四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期(当期)純損失であるため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、緊急事態宣言の解除により経済活動が再開されるなか、景況感を持ち直しに転じるものの、需要低迷が続く業種などを中心に回復は限定的となる見通しが続き、以前にもまして不透明な状況が増しております。

外食業界におきましては、人口減や高齢化による食需要の縮小、顧客の節約志向の高まりによる低価格化の進行、コンビニエンスストアや食品スーパー等の品揃え拡充に伴う中食市場の拡大、消費税増税の影響、新型コロナウイルス感染症拡大による営業時間短縮等により経営環境は極めて厳しい状況が続いております。

このような環境のもと、当社は新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じながら、新規出店12店舗、業態転換4店舗を行いました。

「や台ずし」業態は新規出店11店舗、業態転換3店舗を実施し、店舗数が255舗（フランチャイズ含む）となり、総店舗数の78.2%を占め、当業態の売上高は6,606百万円となりました。

均一低価格居酒屋である「ニパチ」業態は、54店舗となり、総店舗数の16.6%を占め、当業態の売上高は947百万円となりました。

また、新業態として鉄板にのったニュースタイルの焼鳥店「焼とりてっぱん葵町」を名古屋市東区にオープンいたしました。

以上の結果、店舗数につきましては、新規出店12店舗、業態転換4店舗、退店29店舗を実施し、当第3四半期会計期間末の店舗数は326店舗（フランチャイズ含む）となりました。また、当第3四半期累計期間における売上高は7,847百万円（前年同期比44.6%減）、営業損失は1,350百万円（前年同期は営業利益1,720百万円）、経常損失は688百万円（前年同期は経常利益1,938百万円）となり、四半期純損失は574百万円（前年同期は四半期純利益1,236百万円）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期会計期間末における総資産は11,915百万円、負債は4,829百万円、純資産は7,085百万円であり、自己資本比率は59.5%となりました。

(流動資産)

流動資産につきましては前事業年度末に比べ912百万円増加し、8,091百万円となりました。これは主に現金及び預金が896百万円増加したことによるものであります。

(固定資産)

固定資産につきましては前事業年度末に比べ212百万円増加し、3,823百万円となりました。これは主に繰延税金資産が206百万円増加したことによるものであります。

(流動負債)

流動負債につきましては前事業年度末に比べ1,549百万円増加し、3,910百万円となりました。これは主に預り金が447百万円及び支払手形及び買掛金が388百万円増加したことによるものであります。

(固定負債)

固定負債につきましては前事業年度末に比べ274百万円増加し、919百万円となりました。これは主に長期借入金が286百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

純資産につきましては前事業年度末に比べ698百万円減少し、7,085百万円となりました。これは主に利益剰余金が698百万円減少したことによるものであります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期累計期間において、当社が定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	28,000,000
計	28,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2021年2月15日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	10,322,200	10,322,200	東京証券取引所 (市場第一部) 名古屋証券取引所 (市場第一部)	当社の単元株式数は 100株であります。
計	10,322,200	10,322,200		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2020年10月1日～ 2020年12月31日	1,000	10,322,200	95	335,989	95	364,094

(注) 新株予約権の権利行使によるものであります。

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2020年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2020年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 10,319,800	103,198	(注) 1
単元未満株式	2,200		(注) 2
発行済株式総数	10,322,200		
総株主の議決権		103,198	

(注) 1 権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。

2 単元未満株式には当社所有の自己株式61株が含まれております。

【自己株式等】

2020年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社ヨシックス	名古屋市東区徳川町502番地	200		200	0.0
計		200		200	0.0

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間(2020年10月1日から2020年12月31日まで)及び第3四半期累計期間(2020年4月1日から2020年12月31日まで)に係る四半期財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

3．四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,570,841	7,467,282
売掛金	216,587	315,922
完成工事未収入金	1,997	1,536
たな卸資産	168,678	171,937
その他	220,941	135,286
流動資産合計	7,179,046	8,091,966
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2,248,260	2,238,748
その他	586,877	625,597
有形固定資産合計	2,835,137	2,864,345
無形固定資産	4,384	3,678
投資その他の資産	¹ 771,358	¹ 955,192
固定資産合計	3,610,880	3,823,216
資産合計	10,789,927	11,915,182
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	² 500,150	² 888,626
1年内返済予定の長期借入金	45,000	143,322
未払金	695,608	1,061,954
未払法人税等	389,967	458,814
その他	² 730,253	² 1,357,429
流動負債合計	2,360,980	3,910,148
固定負債		
長期借入金	5,413	291,680
役員退職慰労引当金	398,511	415,980
その他	240,542	211,398
固定負債合計	644,466	919,058
負債合計	3,005,446	4,829,207
純資産の部		
株主資本		
資本金	335,894	335,989
資本剰余金	363,999	364,094
利益剰余金	7,084,067	6,385,536
自己株式	515	515
株主資本合計	7,783,445	7,085,104
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,035	871
評価・換算差額等合計	1,035	871
純資産合計	7,784,480	7,085,975
負債純資産合計	10,789,927	11,915,182

(2) 【四半期損益計算書】

【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)
売上高	14,168,108	7,847,591
売上原価	4,450,240	2,650,498
売上総利益	9,717,868	5,197,093
販売費及び一般管理費	7,997,409	6,548,091
営業利益又は営業損失()	1,720,458	1,350,998
営業外収益		
協賛金収入	209,583	205,385
雇用調整助成金	-	411,475
その他	8,818	45,870
営業外収益合計	218,402	662,731
営業外費用		
支払利息	7	234
その他	-	43
営業外費用合計	7	277
経常利益又は経常損失()	1,938,853	688,545
特別利益		
固定資産売却益	3,964	4,392
受取補償金	13,763	23,851
受取保険金	-	4,885
特別利益合計	17,727	33,129
特別損失		
固定資産除却損	924	52,941
減損損失	11,765	44,762
特別損失合計	12,690	97,704
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失()	1,943,891	753,120
法人税、住民税及び事業税	660,143	27,782
法人税等調整額	47,683	206,223
法人税等合計	707,826	178,440
四半期純利益又は四半期純損失()	1,236,064	574,679

【注記事項】

(追加情報)

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、店舗の休業及び営業時間の短縮等により業績は大きく影響を受けております。新型コロナウイルス感染症の収束時期等を正確に予測することは困難な状況ではありますが、徐々に回復するものの翌事業年度以降も一定の影響が継続すると想定し、繰延税金資産の回収可能性及び固定資産の減損等の会計上の見積りを行っております。

(四半期貸借対照表関係)

1 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前事業年度 (2020年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2020年12月31日)
投資その他の資産	135千円	135千円

2 四半期会計期間末日満期手形

四半期会計期間末日満期手形の会計処理については、当第3四半期会計期間末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当第3四半期会計期間末日満期手形の金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (2020年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2020年12月31日)
支払手形	千円	25千円
その他(設備支払手形)	千円	10,365千円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
減価償却費	292,095千円	295,167千円

(株主資本等関係)

前第3四半期累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年 6月26日 定時株主総会	普通株式	123,767	12.00	2019年 3月31日	2019年 6月27日	利益剰余金
2019年 11月7日 臨時取締役会	普通株式	123,803	12.00	2019年 9月30日	2019年 11月29日	利益剰余金

- 2 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第3四半期累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年 6月26日 定時株主総会	普通株式	123,851	12.00	2020年 3月31日	2020年 6月29日	利益剰余金

- 2 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、飲食事業のみの単一セグメントであり重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は次のとおりであります。

項目	前第3四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()	119円80銭	55円67銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額() (千円)	1,236,064	574,679
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額() (千円)	1,236,064	574,679
普通株式の期中平均株式数(株)	10,316,982	10,321,388
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	119円47銭	
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(株)	28,675	
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前事業年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 当第3四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

(持株会社体制への移行)

当社は、2020年9月11日開催の取締役会において承認された吸収分割契約に基づき2021年1月1日付で持株会社体制へ移行し、当社の飲食事業及びこれに関連する事業を当社100%出資の子会社「株式会社ヨシックスフーズ」に、建装事業及びこれに関連する事業を当社100%出資の子会社「株式会社ヨシオカ建装」へ承継いたしました。

(1) 持株会社体制への移行目的

当社は、「赤ちゃんから おじいちゃん、おばあちゃんまで楽しくすごせる心・食・居を演出する」という企業理念のもと、「“あたりまえや”を当り前に」の社是を掲げ、居酒屋チェーンの直営による経営、フランチャイズによる店舗展開を行う飲食事業および飲食店建築を中心とした建装事業を主な事業内容としております。

外食業界におきましては、人材需給の逼迫に伴う人件費や採用コストの上昇、消費税率引き上げの影響に加え、新型コロナウイルス感染症の影響による来店客数の減少等、経営環境は極めて厳しい状況が続いております。

当社は、このような厳しい経営環境においても積極的な出店戦略等により、持続的に成長を続けることで「日本一の居酒屋チェーン」を目指しており、そのためには中核である飲食事業「や台やグループ」の一層の業容拡大に加え、祖業である建装事業の更なる発展、および現在の当社事業範囲にとらわれない新事業への進出、創出が重要であると考えております。

今般、当社を更に発展させ、持続的な成長を続けていくためには、各事業部門における責任と権限の明確化による指揮命令系統の確立により、経営のスピードを更に引き上げることでグループ経営体制を強化することが必要であると考え、持株会社体制への移行を決定いたしました。

(2) 本件分割の方式

本件分割は、当社を吸収分割会社(以下「分割会社」という。)、当社100%出資の分割準備会社である株式会社ヨシックスフーズ及び株式会社ヨシオカ建装を吸収分割承継会社(以下「承継会社」という。)とし、当社の事業のうち、飲食事業に関して有する権利義務を株式会社ヨシックスフーズに承継し、建装事業に関して有する権利義務を株式

会社ヨシオカ建装に承継させる吸収分割であります。

(3) 分割した部門の経営成績(2020年3月期実績)

飲食事業及びこれに関連する事業 (単位:千円)

	分割事業	当社実績(単体)	比率
売上高	18,698,590	18,709,080	99.9%

建装事業及びこれに関連する事業 (単位:千円)

	分割事業	当社実績(単体)	比率
売上高	10,489	18,709,080	0.1%

(4) 分割する資産、負債の項目及び金額(2020年3月31日現在)

飲食事業及びこれに関連する事業 (単位:千円)

資産		負債	
項目	帳簿価額	項目	帳簿価額
流動資産	1,032,104	流動負債	1,310,144
固定資産	518,581	固定負債	240,541
合計	1,550,685	合計	1,550,685

建装事業及びこれに関連する事業 (単位:千円)

資産		負債	
項目	帳簿価額	項目	帳簿価額
流動資産	200,577	流動負債	201,057
固定資産	480	固定負債	-
合計	201,057	合計	201,057

(5) 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」、「事業分離等に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年2月15日

株式会社ヨシックス
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

名古屋事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 奥 谷 浩 之

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 川 口 真 樹

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ヨシックスの2020年4月1日から2021年3月31日までの第36期事業年度の第3四半期会計期間（2020年10月1日から2020年12月31日まで）及び第3四半期累計期間（2020年4月1日から2020年12月31日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ヨシックスの2020年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき四半期財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通

じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

・四半期財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。